

超短編④

「高千穂馬乗同好会」(20020920)

今回は宮崎県からのメールをご紹介します。

国立缶蹴団ですか。古き良き少年少女の遊びを、未来に伝えるべく努力を続けているわけですね。

実は私も先生と同じような活動をずっと続けて参りました。

あつ、申し遅れて申し訳ございません。私は後藤と申します。

九州は宮崎の高千穂町という人口1万5千人足らずの小さな町に住んでおります。仕事はJAに勤めています。

たぶん歳は先生より四つ五つ上だと思えます。四捨五入すると、もう50歳です。いい歳をして、いまだに子供の遊びに夢中なっています。先生と同じです。

私は「高千穂馬乗同好会」という会を約30年前につくり、以来会長を務めて参りました。たぶん、まだしばらくは会長を続けるかも知れません。

名称柄、よく乗馬クラブと間違えられますが、こちらは「馬乗り」です。

先生も子供の頃、この「馬乗り」をやったことがあるでしょう。もしかしたら、東京の方では呼び名が違うかもしれませんが。

先生がご存知ないといけないので、遊び方をご説明いたします。

3〜6人でチームを作り、2チームで遊ぶゲームです。

攻めと守りに別れて、守りのリーダーが大木や壁に背中をつけて仁王立ちします。

リーダーの股座に二人目が頭を突っ込んで中腰になります。

3人目は二人目の両足の間にやっぱり頭を入れて中腰になります。

人数が5対5であれば4人が中腰になるわけです。

攻めは走って来て、この中腰の上におもいきり飛び乗ります。

乗ったら今度は馬(背中)の上でお尻をぐりぐり動かして暴れます。

こうやって守りの馬が潰れたら、攻めの勝ち、逆に攻めがうっかり馬から落ちたら守りの勝ち。全員乗って勝敗がつかなかったら、最後に乗った者と守りのリーダーがじゃんけんをして、勝ったチームが攻め、負けたチームが守りに分かれてこれを繰り返します。

どうですか、思い出しましたか。

同好会のメンバーは男ばかりの約60名です。

中心になっているのは私とかっちゃん、誠、圭介、学の5人で、なんと小学校の同級生です。考えてみれば、なんとこの仲間と馬乗りを40年近くやり続けていることになりません。

町にはいくつか消防団があり、今ではどの消防団にも馬乗同好会の会員が5人から10

人はおり、年に2回行われる大会は各地区の消防団の威信を賭けた戦いとなっています。大会などの公式戦は1チーム5人で行います。

1チーム合計450kg以下という体重制限がある他は、何を着ようと女性を混ぜようが自由です。

私達のチームは、私の他は先ほど名前を挙げた4名です。

大会が近づくとも練習にも力が入ります。

高校のラグビー部や大学の相撲部におじやまして練習相手になってもらっています。

特に私はリーダーなので、足腰を鍛えるための四股は欠かすことはできません。

体重がある方が有利なので、太る努力も怠りません。

晩飯も当然ちゃんこ鍋になるわけです。

晩飯の後全員で体重計に乗り、合計で450kgを超えていると、5人全員居残り練習となります。

我々5人も、今では町中で知らぬ者がいない有名人になってしまいました。陰では「豚乗5人デブ」と呼ばれているそうです。

いつか先生の国立缶蹴団と交流会ができるといいですね。

今はそれが私の夢です。お互いこれからも頑張りましょう。

超短編シリーズはフィクションです。念のため